

平成26年度 学校自己評価システムシート(山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	一人ひとりの生徒の学力向上をはかり、進学力の高い学校を目指す
---------------	--------------------------------

本年度の重点目標	1 言葉に強い生徒の育成に努める 2 授業の工夫と改善に努め、生徒が意欲的に学習に取り組めるように心掛ける 3 生活指導を徹底し、挨拶や礼儀をはじめとする基本的な生活習慣の育成に努める 4 生徒の学力と人格の育成に努め、希望の進路実現を図る 5 より快適な環境づくりに努める 6 本校の特色をアピールし、積極的に広報活動を行う 7 学校運営の改善・向上に努める 8 創立30周年事業 式典・講演会を実施
----------	--

評価	達成度
A	ほぼ達成(8割以上)
B	概ね達成(6割以上)
C	改善の兆し(4割以上)
D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (平成27年 2月21日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	全生徒の学力を向上させるためにあらゆる学問の基礎である 言語能力を高める ことを全校をあげて取り組む	言葉に強い生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> 検定対策講義を「言葉の時間」として週1時間、国語(1年生は2時間)・英語の授業へそれぞれ組み込み実施 日本語検定、英語検定を全員受検 3年間で目標の級に到達するように指導を徹底 入学前より新入生に日本語・英語の各入門テキストを課題として行わせる 毎週漢字・英語単語テストを実施 外部講師を招き、言葉を学ぶ意欲を喚起する講演会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 検定合格者数 学ぶ意欲を喚起する講演会が実施出来たか 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定は2級に5名、準2級に10名、3級に180名合格し、昨年度を上回り3年生の準3級以上取得率は75%となった 英語検定は2級に23名、準2級に55名、3級に216名合格し、昨年度を上回り3年生の3級以上取得率は60%となった 言葉を学ぶ大切さについて日本語検定協会より、検定委員会審議委員長で元ANAラーニング株式会社取締役会長の山内純子氏をお招きして講演会を実施し、生徒の学ぶ意欲喚起に努めた 	A	<ul style="list-style-type: none"> 3年間で個々の目標とする級に到達するように指導を徹底する 検定対策の「言葉の時間」を一層充実させる 今後も意欲喚起に繋がる講演会を企画する 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語検定が広く社会に認知されていることは良いことである。 生徒が日本語検定、英語検定を意欲的に受検していることが良く分かる
2	特別選抜コース 特別進学コースⅠ 特別進学コースⅡ 進学コース それぞれの コースに適した授業法を開発 して授業力を向上させる	授業法の改善	<ul style="list-style-type: none"> 入学前後の学習指導の充実 習熟度確認テストの実施(3月) 確認テストの事後指導を3日間実施(3月) 総復習用のテキストを課題として配布 課題の確認テストを実施(4月) 自学の習慣を身に付けさせる指導(1日3時間を目標とする) 対話型授業の導入(言語活動の充実) 朝食を摂らせる指導 教員自己評価の実施 生徒からの授業評価の実施 研究授業の実施 公開授業の実施 教員研修会の実施 ICT教育の研究 	<ul style="list-style-type: none"> 意欲が向上し、家庭学習が定着したか 教員が授業力向上に努めているかアンケートを実施 生徒が授業に満足しているかアンケートを実施 コース毎のデータを基に伸長を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 3月15日入学予定者に学力テストを実施し、入学試験の結果と合わせてクラス編成を行った。 3月25～27日学力テストを基に入学前トータルビュー(総復習)を実施し、入学までの学習方法を指導した 授業公開や研究授業、外部への研修会参加から、教員が自己を評価する教員自己評価アンケートや生徒が授業を評価する授業評価アンケートを基に授業力向上のための教科研究会が活発化した 対話型授業の導入で生徒の積極的な授業への参加定着に努めた 県教育委員会と東京大学の連携で推進する協調学習法を研究し、教員研修会では「コーチングマネジメント」について協調学習法を用いて体験した 文部科学省より紹介されているアクティブラーニングの手法について教員研修会を行った ICT教具として電子黒板を設置して、授業に活かす 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新入生に対して入学前や春季休業中の学習から指導を行う 授業力向上に向けて教科研究会を継続して行う 対話型授業、協調学習、アクティブラーニングと生徒参加型の授業を研究して行く ICT教具の導入に伴い各教科で活用方法を研究する 	<ul style="list-style-type: none"> 入学早々の箱根での移動教室で学んだ緊張感をその後の慣れから緩まなないように気を付けて欲しい 反転授業は予習をして来ない生徒が増加すると難しくなる。熟考した学習計画の中でより効果の高い授業をお願いしたい 参加型の授業の効果に期待したい

3	校訓の「創造」・「自律」・「親切」をより具現化するため、目指すべき生徒像を ・「熱き心」を持ち ・「品位とけじめ」のある ・「あいさつ」のできる 生徒と設定し、指導を徹底する	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を継続して指導 ・道徳教育を継続して指導 ・挨拶の指導を徹底 ・登下校時のマナー指導の徹底 ・家庭と連携を図り、生徒指導を徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者が生活習慣の向上を実感しているか ・教師と生徒と保護者の信頼関係が築けているか ・学校に寄せられる苦情の件数が減っているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学年集会を通して基本的生活習慣や人権についての指導を行った ・校訓や目指す生徒像の標語をもとに元気な挨拶の出来る生徒が増えた ・家庭との連携を心掛け、生徒の育成に努めた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を一過性にせず継続的に指導を行う ・挨拶は教員自らが積極的に行い、お手本となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶と美化意識は連動しており、変わらない指導をお願いしたい ・生徒への指導は、全教員が一致した指導方針のもとで行って欲しい
4	生徒個々の進路目標を実現するため、補講・補習を一層充実し、より 学力の高い学校を目標 とするよう指導する	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・日本教育工学研究所との連携を強化 音羽塾の毎週土曜日開塾 自学用補助教材の開発 ・模擬試験を各コースの特性に合わせてきめ細かな事後指導を徹底 ・二者面談によるモチベーションの維持 ・通年補講、補習の拡充 ・夏期休業中サマーセミナー(1・2年)、センター合宿(3年)の充実 ・各種ガイダンス・講演会を通して具体的な進路指導の実施 ・勉強部の強化 ・進路指導室からの情報発信の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望進路が実現できた生徒が100%に近づいたか ・補講や補習が充実していたか ・昨年度の進学実績を上回ることができたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成流学びの構築」を日本教育工学研究所と連携し、指導法や教材開発を進めた ・センター入試利用者が173名となった ・模擬テストの結果から、きめ細かな指導に役立てた ・通年補講や補習の拡充を図ることができた ・サマーセミナーやセンター合宿の内容を再検討し、より効果の高い手法を模索した ・各ガイダンスを通して進路目標を設定する機会を充実させた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬テストはコースの特性に合わせたものを実施し、事後指導を徹底する ・サマーセミナーやセンター合宿での成果を検証し、より効果の高い手法を確立する 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター入試の受験者が増え、受験後の補講も充実していた。感謝している
5	学習環境の改善に取り組み、 情操教育を充実 させ、校内の環境づくりに努める	更なる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の環境整備 ・3学年全員に茶道教室、歌舞伎教室の実施 ・文楽教室の実施 ・情操教育としてヒロ・ヤマガタの版画を校内に展示 ・情操教育として日本文学者24人の色紙を校内に展示 ・教育研修施設の設置 ・校庭の庭木を剪定し、美化に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒および保護者が校内環境に満足しているか ・本校の教育環境に対して来校者の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の蔵書を整理し、10月よりリニューアルオープンし、生徒の利用が増えた ・情操教育の一環として行った版画や色紙の掲示が好評である ・第一グラウンドの全面人工芝でサッカー部以外に体育の授業や昼休みに生徒が利用している ・第三グラウンドの陸上トラックで体育祭が実施された ・教育研修施設の使用開始 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の充実として調べ学習が行えるように椅子やPCの整備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室は学校の心臓とも言える場所 図書館司書の常駐で、いつでも利用可能な環境をお願いしたい ・図書室に新聞の活用として掲示板の設置を検討して欲しい ・図書の蔵書の整理に保護者も手伝ったと聞き、素晴らしいと思った ・体育祭を陸上専用グラウンドで行い保護者も応援し易く良かった ・体育祭では熱中症対策の準備が万全で、安心して生徒の応援ができた
6	生徒募集活動を活発に展開し、 質の高い生徒の入学 を目指す	意欲のある生徒を募集	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で塾、中学校訪問を実施 ・募集用のポスターを工夫し、電車や駅構内での広告活動を積極的に展開 ・説明会や相談会を通して広報活動に力を注ぐ ・近隣中学校の講演会へ講師派遣 ・全教員の名刺作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・受験者数の拡大と入学者数の確保 ・コース毎に過去年度の学習到達度テストで比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員で塾や中学校を訪問し、本校の教育活動を広めることが出来た ・進学コース内にスーパーサッカーコースを新設し、好評につき2クラス編成とした ・広報活動を積極的に展開して本校の知名度を上げることが出来た ・中学校からの講演依頼(10校)を受け、本校の周知に努めた 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、厳しい経済状況下での募集に対し、継続して本校をPRして行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校や塾を訪問した際に本校への要望を集約して来年度の募集に役立て欲しい
7	教員一人ひとりの適性を活かした 組織づくり を行い、 明るい職場環境 を目指す	組織の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・新人を採用し、職場の雰囲気改善 ・二人担任制の導入 ・職員室を整理整頓し、明るく会話のし易い環境をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・機能しているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員研修で「コーチングマネジメント」を学び、個々の資質向上に努めた ・その際、学校が教材を全員分購入し、その教材を研修で読破した ・校長より教職員へ「ハラスメント」に注意するよう訓辞がなされている ・二人担任制の導入によりきめ細かな指導を行っている 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員個々が更なる資質向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の一つとして地域社会との連携について次年度は検討して欲しい
8	記念式として 記念行事 と式典を行う		<ul style="list-style-type: none"> ・創立30周年記念式典の挙行 		<ul style="list-style-type: none"> ・創立30周年記念行事として数学者の秋山仁氏をお招きして11/15に講演会を実施 ・創立30周年記念式典を県知事の上田清司氏らをお招きして11/23に挙行了した 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい式典が挙行されたと思う